

## 第5回地域づくり交流会

### ■昭島市立中学校校長会■

平成24年10月22日(木)11時00分

瑞雲中学校

#### 【中学校】

昭和中学校：岩下伴雄校長、福島中学校：桑洋校長、  
瑞雲中学校：喜多野雅司校長、清泉中学校：小谷野  
茂美校長、拜島中学校：中島理智校長、多摩辺中  
学校：山下博一校長 6名

#### 【自治連】

小野正敏会長、嶽山俊夫副会長、宮田次朗副会長、  
指田 準副会長、大野利男会計、黒崎治雄常任委員、  
加藤久之顧問、自治連事務局 細谷 隆宏 8名

【防災課】小松 慎課長 計 15名

#### ●小野 自治連会長の挨拶

今日はどうもありがとうございます。

市内の中学校と小学校は、やはり我々にとってはコミュニティの中心でもあり、災害発生時は一時避難所としてご利用させていただくという事もあり、地域づくり交流会をもたせていただきました。防災・減災が中心になると思いますが、よろしく願いいたします。その関係もあり、今日は、昭島市の総務部防災課にも参加いただいております。

●防災課)日頃みなさんにはお世話になっております。また、今日は防災という事で3.11東日本大震災を受けまして、皆さんが力を入れていただいている事に関して大変感謝を申し上げます。今日は実りある会になる事を期待しています。よろしく願いします。

#### ●参加者自己紹介

#### ●中学校会の現状紹介……………小谷野 会長

小・中学校と教育委員会も含めて防災ついま

しては、3.11 東日本大震災を踏まえまして学校は今、本当に生徒たちが、動けるのか！命を守れるのか！を話し合っている段階です。常日頃の避難訓練だけではなく、各中学校が初動時の安全確認と避難を明文化したものを作成するよという事で、ひな形は教育委員会で作って下さいました。それを各学校毎につくり直しました。



それと合わせて、そのひな形づくりの時に小・中の校長会長と防災課の方々といろいろ話し合いの機会がありました。また今日は、自治連の役員の皆様とお話し出来る事は、大変意義があると思っています。学校は一時避難所になっています。学校の防災倉庫には避難のための毛布や食糧がありますが、学校にいる生徒のものがまったくないという事もわかりました。

また、体育館に避難対応の人数が600人とすると、その人数はまずは生徒で、次が地域の方ではないかと思っています。これからは、教育委員会、防災課、中学校それと地域の自治会の皆様方と具体的な問題として協議していくことが重要だと思っています。

避難されるとき地域の方たちが、中学校と小学校のどこに行かれるのかという事も含めて、今後、会議を重ねて学校側も整理をし、また自治連の皆様や教育委員会や市役所の担当者の方とも相談をしていきたいと思っています。以上が防災に関する現状です。

学校によっては周辺自治会と連携を取りはじめていますが、全体で足並みを揃ってやって行きたいと思っています。以上でございます。

●自治連の現状紹介……………小野 自治連会長

自治会連合会の組織はあくまでも単一自治会の集合体というように考えていただきたいと思います。各自治会に対して命令形でもございませんし、あくまでも話し合いにより、いろんな進め方をしております。

自治会連合会の中には 4 つの委員会がございます。総務・事業・防災・広報の委員会です。

今、昭島市の自治会への加入率は 40 パーセントぎりぎりぐらいです。

特に自治連として今、力を入れてやっけていこうとしているのは『防災隣組の構築』です。

これは防災時の対応でまずは「自助」が基本の基本です。次に隣近所で助け合う「近助」が非常に大事です。マンション等の共同住宅は隣人の顔もあまり知らないのが現状ですので、防災隣組が必要なのです。

今、市内でも防災隣組をスタートさせた地域もあります。60%の世帯が訓練に参加いただいたそうです。この機会を捉え、地域としても防災に取り組む時ですね。まさに“今がチャンス”です。

今、私たちが一番悩んでいる事は小学校を中心にした、コミュニティ活動をやってきていますが、実は小学校区と自治会区が不明瞭になっておりまして、ひどいところは 1 つの自治会が 3 つの学校区に行っています。できれば無理のない中学校単位でのコミュニティ組織をまとめていくのがいいかと考えております。地元の中も今度の中学校の防災訓練を地域としてどう協力出来るかというような事の話も今始めたところでございます。

我々が今、防災に力を入れている理由のうち 1 つは、3 日分の非常食料と飲み物を準備する事です。自助の備えをやっていきたいと思えます。それと“家具の転倒・落下防止、ガラスの飛散防止”です。これらの事を重点的に取り組んでいきたいと思えます。以上でございます。



<参加者の意見交換>

●中学校会) 今日の交流会で今後、地域の方々と学校といかにこの防災について共に取り組んでいくかというところを 1 つでも明確にしていけたらと思っております。

●自治連) 10月に自治連として東京都の助成金を活用し、A3二つ折りカラー刷りで「防災のパンフレット」を作成しました。市内の自治会加入世帯と、全小学校の児童にも 5,700 枚配布しました。中学生分も 2,700 枚用意しています。中学校校長会の方で了解いただけるならば、お渡ししたいと思います。一応、行政の方には了解もっています。いかがでしょうか。

●中学校会) ありがたいお話ですね。それでは、生徒数と教員分お願いします。

●中学校会) 参考までにお伺いしますが、このようなパンフレット毎年発行ではないのですか。

●自治連) はい、また違うパターンで出すかもわかりませんが、来年以降のことはまだわかりません。

●中学校会) 承知いたしました。是非、各学校で活用させていただきたいと思えます。

●自治連) 初めに、参加の校長先生からご意見を先に頂戴したいと思います。それからご意見を中心に話し合いを行いたいと思えます。

●中学校会) 防災の見直しをしていると、学校だけでは出来ない問題点がいくつも出てきました。



1つは学校の中で避難場所をどこにするか。どこでも良いというわけではありません。実は個人情報等で使用できない部屋もあります。そういうことの共通理解が必要かと思います。また、自治会の方と一緒に防災訓練を希望する場合、周辺の自治会の窓口を知りたいと思っています。

●中学校会) 中学が川に近いところにあり、市の防災のハザードマップによると浸水する地域なのです。実は多摩川が氾濫するというのはどういう場合を想定しているのかなというのがよくわからないのです。

●自治連) 小河内ダムが決壊した場合には、昭島周辺も氾濫するでしょう。過去に私が経験したのは、大雨で昔の多摩大橋の橋桁の上まできたのを見た事があります。

●中学校会) 地域の方が中学生にどのような事を期待しているのかを知りたいですね。保護者にもこういう事を地域で期待していますよとお話する事が出来ると思います。

●中学校会) 初動時は生徒の命を守る事が学校の大きな務めです。その後、地域にとって力に成りうる存在でもあります。例えば、小学生を親御さんの代わりに引き取りに行くとか。また、お年寄りに対してどんな関わりが出来るかは、日頃より子供たちに指導する必要があると思っています。

●中学校会) 学校がお休みの時に災害が起こったと仮定しますと、指示命令を出す管理職以下、昭島在住の教員がほとんどいない。歩いて来ても、

数時間は指示命令を出す人がいません。このことは教育委員会にも伝えてありますが、十分に学校の活用の仕方や教員がいない場合の手順や約束を地域の皆様や防災課とてつめていきたいと思っています。防災倉庫の毛布や食べ物を学校としてどのように考えていいのか、今後の見通しも含めて教えていただきたい。

●中学校会) 3.11を受けて、中学校でも今後地域の方と何らかの形で知恵を出し合っていきたいという事で地域防災会議を2、3回実施しました。12月に生徒を集めて地域の方も一緒になって第1回目の防災講習会を実施予定になっています。やはり地域の方の区分けと学校がすべき事がなかなか見えてこない。いろいろ出来ない事や不可能な事があるだろうけれど、まず一度集まって中学生と地域の方でやってみようということから活動を始めたところです。地域で考える事と学校で考える事が見えてくるとと思います。

●中学校会) 河川敷から近く周りには用水路があります。大雨・台風時は氾濫します。多摩川の決壊以上に集中豪雨と地震を想定して防災マニュアルづくりをしています。

備蓄倉庫を開けて、教員が発電機の使い方は知っているのか、いざの時に備蓄品が使えるのかというところで点検をしていきたいと思っています。

●防災課) 備蓄品の今後の見通しですが、平成19年の地域防災計画による避難者数を踏まえ、今18,000人分の備蓄品が食料を含めてありま



す。各学校には緊急分として300人分です。別に市内9箇所にも備蓄倉庫があり食糧など18,000人分のものを避難所となったところに食料を持っていく。それが現在の計画です。



平成24年4月に東京都の新しい被害想定が出ました。今昭島市で一番の被害が起きるのは、発生確率は低いのですが立川断層帯の地震です。これの避難者数が55,000人との数が出ています。それに備えて市が今後、備蓄品や食料の備えを見直していきます。簡易備蓄倉庫の備蓄品は生徒さんが帰れない場合で、そのまま避難者になった場合は使ってもらっていいです。

●自治連) 備蓄品が300人分。小・中学校の児童・生徒がいる時に、起きた場合に子供たちを守るために使うこともあると話されていました。

●中学校会) 中学に周辺住民が5,600人押しかけたら大変ですし、1~2割でも1,000人は超えます。そうすると300食は意味ないですね。また、避難場所として使用する所も普段から自治会の皆さんと連携する必要がありますね。

●自治連) 中学生は若さがあり、力も能力もある。自治会には年寄りが多くあまり力にならないので中学生とは、お互いに顔が見える仲になり地域のパワーになることを期待しています。

●自治連) 平成24年度、多くの団体と交流会を初めて行っています。今まですべて縦割りになっています。それぞれが1つの固まりで完結している。横の連携もなく来ました。平成24年11月の地域懇談会では、学校の避難所の運営委員会を設置することを提案します。

昭島市の地域力つけるためには今の自治連のブロックの区割りや組織の見直しが必要と考えております。一つの案が中学校単位です。

●自治連) 小学校を対象とした場と中学校を対象とした場合は違うと思います。小学校はまずは安全を確保して学童を家に帰してあげるという事が主眼だと思います。中学校には、地域の防災力向上への取り組みにご協力をお願い出来ないかと思っています。

●防災課) 洪水の問題は、ハザードマップは国土交通省が平成14年につくった200年に1度の大雨400ミリぐらいの雨が降った場合に、土手を水が超えてしまったらどのぐらい浸水するかと想定したものです。今、地域防災計画の見直しをしていますが一緒に浸水の件についても検討しています。

●中学校会) 地域の代表の方が、学校での避難所の鍵をお持ちということですが、学校も誰が鍵を持っているかを知ったうえで対応が大事ですね。

●自治連) たとえば、書類での通知があったとしても顔が解らない。災害時どんな格好で来るのかもわからない。自治連では、災害時の防災リーダー用のヘルメットを23年度に配布しました。

●自治連) 災害時、生徒の生命を守ることが一番大事です。生徒を無事帰宅刺した後は、避難所運営をどうするかです。今後、今日を契機として検討が必要だと思います。



●自治連) 東日本の時の教訓でももう一つの問題は、災害時要援護者です。特に精神的障害を持たれた方などが避難所に入ってきた場合どうするのか。これはプロの方でないと対応が出来ないと

思います。自閉症等も含めて余計な事かもわかりませんがこれらの方々の扱い方も、是非昭島市の防災計画には入れていただきたいと思います。

●防災課) 基本的には、まず普通に避難生活を送れる方は学校等の一時避難場所に来て下さいと皆様に話しをさせていただいています。次に高齢、または障がいがあり、介護を必要とする方については二次避難所となります。



●自治連) まず、身の安全を確保のために近くの安全の場所に避難されると思います。その後、普通に避難生活ができない方は、二次避難所が市の考え方ですが、我々は第二避難所がどこなのかわかっていません。

●防災課) 市民の皆様には配布しています防災マップには、二次避難所がどこかは書いてありますのでご覧ください。

●中学校会) 災害時、避難所へはどういう人が避難するのでしょうかね。

●自治連) 3.11の時、昭島市でも実際は電車等が動かなくなり帰宅困難者の方が、市民会館や高校の避難所に避難してきました。地元の方は今回家が別に壊れたわけでもない。自分の家が怖くて、自信がなく建物は大丈夫なのだけど、1人で怖いからっていつて来る人も多いと思います。

●自治連) 自宅で様子を見ている方も、3~4日目から食糧等をもらいに来るため避難所が混み始めます。だから、避難してきている人数と食糧を取りに集まってくる方の数は異なるということです。

●中学校会) 避難所に、行政と自治会と校長がい

るわけですが、それぞれの役割分担を日頃から共通理解しておかないと災害時は対応できないでしょう。

●中学校会) 災害時の校長の最大の役割は、早く学校再開することです。避難生活の人の面倒は地域の皆様にお願ひし、早く学校を再開するために連携を取り、生徒が早く学校に戻れるようにすることと考えています。また、教室によっては避難所としては使えない部屋もありますので、そのことは、地域の皆様にはご理解いただきたいです。

●自治連) “BCP”が大事ですね。東日本大震災において、中小企業の多くが、貴重な人材を失い、設備を失ったことで、廃業に追い込まれました。また、被災の影響が少なかった企業においても、復旧が遅れ自社の製品・サービスが供給できず、その結果顧客が離れ、事業を縮小し従業員を解雇しなければならないケースも見受けられました。このように緊急事態はいつ発生するかわかりません。BCPとは、こうした緊急事態への備えのことです。

●自治連) 自治会が加入している人が現状40%ですが、これらの方は我々の指示は聞いてくれると思いますが、残りの60%の未加入の人が「ふざけるな」とか「俺たちは俺たちで勝手にやる」など秩序が保たれるかが問題ですね。顔を知らない方々ですので神経使わないといけないと考えております。また、授業の再開の為に、避難者がいつまでそこにいられるのっていうのが1つあります。

●中学校会) 体育館だけにすると、おのずと何百人っていう人数になります。

少なくとも学校の方ではオープンに出来ないところ、先ほども触れましたけれど個人情報、あるいは生徒の安全、地域の方々の安全という事を踏まえれば、どの学校もまずは校長室・職員室はオープンには出来ない。それから薬品の入っている理科室と保健室。それは最低限でも学校側の管理下にしておかなければいけないと思います。

その避難の規模だとか状況によって、体育館だ

けでは済まないケースも出てきた場合、これから各学校、各小・中学校でつめていかなければいけない問題と認識しております。

●中学校会)それから学校としては地域でもそうでしょうけど、中学生の心の中にしっかりと自分の役割が何であるのか。そして、生徒に対してどんな行動力・判断力を身につけさせていかなければならないか等をより具体的に今後は、はっきりとさせていかなければいけないと思っています。

### ■締めの挨拶 小谷野会長

どうもありがとうございました。中学校の方もそれぞれ学校の状況もありますし、全体通しての課題もあります。こういう防災対策などの話しの総論はみんな賛成するのですが、各論になるとストップしてしまうというのが多いので、是非地道に積み上げていきたいと思えます。

少し時間はかかるかもしれませんが、その各論を校長会の方も教育委員会等と連携を取りながら、考えてまいりたいと思えますので、自治会連合会の方からのご助力も、どうぞ宜しく

お願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

### ■締めの挨拶 小野会長

それでは、今日はどうもありがとうございました。非常時の避難所として中学校側の姿勢、地域住民の協力の在り方をどうするかということと思えます。



やはり“避難所別運営協議会”というのを早く立ちあげたいですね。もちろん行政と教育委員会にも入っていただかなければいけません。また各自治会でその地域固有の問題もあるので、これはこれで検討していかなければいけないと認識しております。一歩ずつ整理して出来るだけ早い時期に“避難所別運営協議会”を立ちあげていきたいと思えますので、よろしくご指導お願いいたします。 以上

